

<文化財等救援委員会現地本部、レスキュー活動から撤退>

文化財等救援委員会現地本部は、4月から尼崎市立地域研究史料館内に移転し、史料ネットとも共同して救済活動にあたっていましたが、4月一杯でレスキュー活動から撤退しました。これによって史料ネットの役割はますます大きくなっています。

<各地の被災史料救済活動>

No.2発行以後、史料ネットでは8件のレスキューを実施し、のべ71人のボランティアを派遣しました。現在、2件のレスキュー予定があります。被災地域のパトロール調査活動も本格化し、梅雨を前に出動回数はますます増えそうです。

いくつかの地域の経験を紹介します。

◇神戸市

4月10日、神戸大学文学部内に史料ネット神戸センターを開設し、神戸市域の被災史料のパトロール調査活動を開始しました。班をつくって被災した東灘区・灘区の旧村を回り、被災史料の保全を呼びかけたり、史料保全のビラを配布しています。残念ながら「手遅れ」で、史料を売却したり破棄したりしていたケースもありましたが、パトロール活動に対する反応はよく、ビラをみた旧家から史料ネットに相談があり、戦前・戦後の町内会文書など段ボール10箱を救出しました。また、地域に口コミで史料ネットの活動がひろがり、それを聞いた旧家から連絡があり、明治2年心齋橋で創業した時計屋の経営史料の存在がわかりました。この史料については、大阪市史に連絡し調査を依頼しました。

次のパトロール活動は、6月3日東灘区旧住吉村で行う予定です。梅雨の本格化を前に一層のパトロール調査活動が求められています。

◇伊丹市

伊丹市域でも、伊丹市立博物館、全史料協近畿部会のメンバー、史料ネット、郷土史家が協力して3月末から4月にかけて被災史料のパトロール調査活動を行ないました。調査活動は、5回のべ26人が参加し、段ボール3箱相当の史料を回収しました。また、伊丹では、救出した史料の仮整理も、全史料協近畿部会のメンバーや史料ネットが伊丹市立博物館に協力して行なっています。

◇宝塚市

日経5月2日付の史料ネット紹介の新聞記事(3頁)を見た旧家から連絡があり、絵画の下張り文書50点を回収しました。また、史料ネットが市史資料室に協力しての被災史料パトロール調査活動を6月9日(金)山本地区から開始する予定です。

◇西宮市

史料ネットが文化財課に協力して被災史料のパトロール調査活動を計画中です。

〈5月6日シンポ開催される〉

ニュースレター2号でお知らせしました、「歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム」が5月6日尼崎市立総合文化センターアルカニックホール・オクトで開催されました。当初は、100名規模で会場を予定していましたが、問い合わせが多く会場を変更することになりました。当日は雨の続いたゴールデンウィークで久しぶりの晴天にもかかわらず、160名が参加し熱心な討論が行なわれました。シンポの様子はテレビニュースで放映され、新聞も大きなスペースをさいて報道するなど、この問題に関する関心の深さと、史料ネットへの期待を感じるものでした。詳しくは新聞記事(4~6頁)を参照して下さい。またシンポの記録が8頁の案内にありますように、このほど刊行される運びとなりましたので、それを参照してください。

〈事務所移転のお知らせ〉

長らく、史料ネットは尼崎市立地域研究史料館に事務所をおいていましたが、6月初旬には移転することになりました。今のところ、事務部門を日本史研究会事務所、実務部門を史料ネット神戸センターに移す予定です。詳細は追ってお知らせいたします。

史料ネット神戸センター(神戸大学内)連絡先

TEL 078-881-1212(内線4070)

〈会計報告〉

募金への協力ありがとうございます。5月20日現在の収支状況は以下の通りです。

【収入】

3,896,385円
(638名、5団体から)

【支出】

ボランティア保険	529,113円
ボランティア補助	374,409円
消耗品費	161,420円
通信費	132,510円
施設利用費	289,416円
常駐員手当	763,800円
神戸センター 開設費用	200,000円

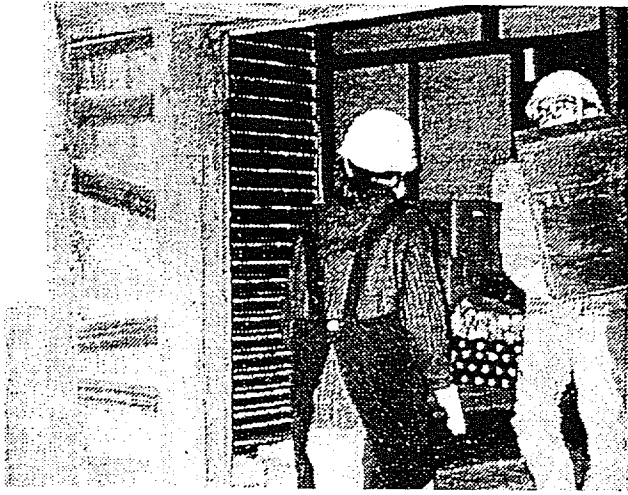
総計 2,450,668円

民家全半壊 古文書に危機迫る

街の歴史資料を守れ

研究者ら60人「救出」作業

阪神大震災で全半壊した民家に残された古文書など街の歴史資料を守ろうと、関西の歴史研究者らがボランティア組織を作り、資料の撤出、保存に取り組んでいる。これまで江戸時代の医学書など貴重な資料を処分から救った。ただ、地震発生から三カ月余りが経過し、壊れた家の取り壊し作業とともに歴史資料が捨てられるケースも増えており、歴史資料の保存は時間との競争になっている。



歴史資料を運び出すネットワークのメンバー

進む取り壊し 時間と競争

全半壊した民家からの文化財、古文書などの撤出、保存活動を進めているのは、関西を拠点とする四つの歴史学会に所属する若手研究者などで組織する「歴史資料保全情報ネットワーク」(代表・奥村弘神戸大助教)だ。「地域にとって貴重な歴史資料を守り、文化遺産として後世に伝える」そんな思いが活動のきっかけとなった。関西の大学で歴史学を専攻する学生を中心に郷土史家なども加わり、約六十人がボランティアとして参加。二月中旬から、

倒壊した民家などからの依頼を受けて歴史資料の撤出作業をしているほか、文化庁や自治体から要請があれば、人の派遣も行っている。

これまで同ネットワークが「救出」に駆け付けたのは、自治体などから要請を受けたものを含めて十数件。三月九日、伊丹市の全壊した民家からの要請で、メンバー十九人を派遣し、江戸時代の医師の活動を知ろうと貴重な資料とある江戸時代の医学書など約千冊を撤出した。同日、同じ伊丹市の依頼で、同市内の民家、軒から火組銃や幕末から明治維新にかけての嫁入り道具を運び出し、市立博物館に撤出した。

また、同一県で歴史資料を処分から救い出したことも出る。西宮市の民家を、市指定文化財となつていて江戸時代の古文書が約百冊、市の郷土資料館に運ばれた。しかし、三月下旬に民家の母屋などの解体作業にネットワークのメンバーが立ち会ったところ、明治初期の村の自治に関する規約書など、村歴史の研究にとって重要な資料がまを捨てていたという。

こうした成果にもかかわらず、メンバーの表情は暗い。「全半壊した家を取り壊す際に、がれきと一緒に古文書などを捨てたり、売却したりするケースが目立つ」(事務局)からだ。狭



調査
トクモキ
06
222-3631

い。

1995年(平成7年)5月7日(日曜日)

阪神尼崎版(22)

文化生かし復興を

阪神大震災の被災地の復興計画について考える「歴史と文化をいかに街づくりシンポジウム」(歴史資料保全情報ネットワーク主催)が6日、尼崎市総合文化センター・アルカイックホールオクト

で開かれた。歴史学者ら8人が地層と被害の相関関係、文化遺産の被害状況、歴史資料の修復・保存方法などについての提言、復興における歴史研究者の役割についてなどの意見を交わした。



▲歴史資料の修復方法などについて提言したシンポジウム

阪神大震災の被災地の復興計画について考える「歴史と文化をいかに街づくりシンポジウム」(歴史資料保全情報ネットワーク主催)が6日、尼崎市総合文化センター・アルカイックホールオクトで開かれた。歴史学者ら8人が地層と被害の相関関係、文化遺産の被害状況、歴史資料の修復・保存方法などについての提言、復興における歴史研究者の役割についてなどの意見を交わした。

歴史学者らがシンポ 尼崎

同ネットワークは、同市に歴史学者や学生らで構成する歴史資料保全情報ネットワークを設立し、立地域研究史料館に事務局を設け、二月の発足以来、震災と向き合ってきた。阪田貢・関西大文学部教

授の取り組みについての報告もあり、参加者約百五十人が熱心に聞いていた。

「文化財レスキュー隊」が活躍

阪神大震災の被災地

仏像や古文書など 倒壊建物から救い出す

復興への努力がつづく阪神大震災の被災地で、たおれた建物にうもれた文化財をすくい出す文化財レスキュー隊が活動しています。文化庁がよびかけて全国から集まっ

た専門家や地元の研究者のグループなどで、地域の歴史をものたる文化財をのこそうと、力を合わせて地道な作業をつづけています。(吉田 由紀)

文化庁のレスキュー隊は四月まで、「情報ネットワーク」は五月いっぱい、救護活動を行う予定で、その後は全国の経緯を生かして文化財の防災について研究するといえます。兵庫県芦屋市の小山順さんの家では今月十一日、「情報ネットワーク」のメンバーが参加して、全壊した建物の中から代々つたえられてきた古文書をさがし出す作業が行われました。シヨベルカでがれきをはりおとし、大町なものを見つけるとみんなで運び出します。あたりの家はまたたおれたままだったり、建物をかたづけたり、作業を見守っていました。

大震災の被災地、文化財がたぐきんのかつている地域です。国や県が指定した文化財は、震災後の状態を正確に確認できるものが少なかったのですが、小さなお寺や個人の家で保

管していた仏像や古文書などは、たおれた建物にうもれ、がれきといっしょにすてられてしまう危険がありました。そこで文化庁は震災から一か月後の二月十七日、国立美術

館など文化財や美術に関係のある団体によびかけて「文化財レスキュー隊」をつくり、地元の研究者のグループ「歴史資料保存情報ネットワーク」などと協力して活動をつづけて

ました。かたむいてたおれる危険があったり、くすれた建物の中からは文化的価値のある物をすくい出し、博物館などの安全な場所へうつします。これまで江戸時代や明治時代の古文書、民俗資料などのほか、一九四五年の神戸大震災直後の写真などもすくい出しています。

解体作業のすむ小山順さんの家から長持ちを運び出すボランティアの人びと(上)。運び出された古文などは、芦屋市美術館博物館におさまられることになりました(兵庫県芦屋市)



朝日小学生新聞

発行所 朝日小学生新聞社
〒104 東京都中央区本町2-1-1
電話(03) 3515-5221 (代答)
3515-5222 (編集)
3515-5223 (印刷)
3515-5225-6 (広告)
入会費 年費 大阪府内 2,400円
9,000円 北海道 2,600円
定価 1,200円(税別) 送料別
1,600円(税別)
印刷発行 朝日新聞社
〒100 朝日小学生新聞社 1295
発売 ASA(朝日新聞販売所)

5月6日「歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム」記録集刊行のお知らせ

さる5月6日に開催されたシンポの報告集がこのほど刊行されました。内容は下の目次のように報告のみならず、これまでの各団体の活動記録も掲載され、阪神大震災後の歴史資料救済活動の全体がわかるようになっています。定価は500円（送料300円）です。ご入用の方は下記までハガキかファックスでご注文ください。記録集と振替用紙をお送りいたします。

〒602 京都市上京区新町通丸太町上る春帯町350 機関誌会館3階 日本史研究会
TEL075-256-9211・FAX075-256-9212

まえがき -----歴史資料保全情報ネットワーク事務局長・藤田明良 1

【第1部】シンポジウムの記録

(報告とコメント)

被災地域の歴史的特質と歴史を活かした地域の再生 --- 藪田 貫	3
地震災害と平野の古環境 ----- 高橋 学	7
被災史料の状況からみた史料保存の課題 ----- 奥村 弘	13
-史料ネットの活動から-	
身近な文化遺産を残す重要性 ----- 坂本 勇	18
-ガレキからの救出活動を組織化して-	
建築文化財と歴史的環境の被害と保全 ----- 足立裕司	22
被災地域の埋蔵文化財と今後の課題 ----- 和田晴吾	25
復興都市づくりと実現プロセス ----- 塩崎賢明	38
戦後ドイツの都市復興・再開発と歴史文化遺産 ----- 市原宏一	40
(ディスカッション記録) -----	42

【第2部】資料編

歴史資料保全情報ネットワーク活動記録 -----	47
文化財等救援委員会およびNGO活動記録 -----	49
自治体別、被災史料救済の状況-----	51
被災史料救済アピールと、復興に関する要望書 -----	54
シンポジウム出席者の感想から-----	57

史料ネット NEWS LETTER №3 1995.5.25(木)

編集・発行 歴史資料保全情報ネットワーク

尼崎市昭和通2-7-16 尼崎市立地域研究史料館内

TEL 06-482-5246 FAX 06-482-5244

史料救済募金 郵便振替

名義 阪神大震災対策歴史学会連絡会/口座番号 01090-7-23009